

2019年1月28日

ご参考資料

Follow  
Up  
Memo

## 投資家の過度のリスク回避姿勢が和らぐに連れ、 反発が期待される日本の中小型株式

フォローアップメモ

nikko am  
fund academy

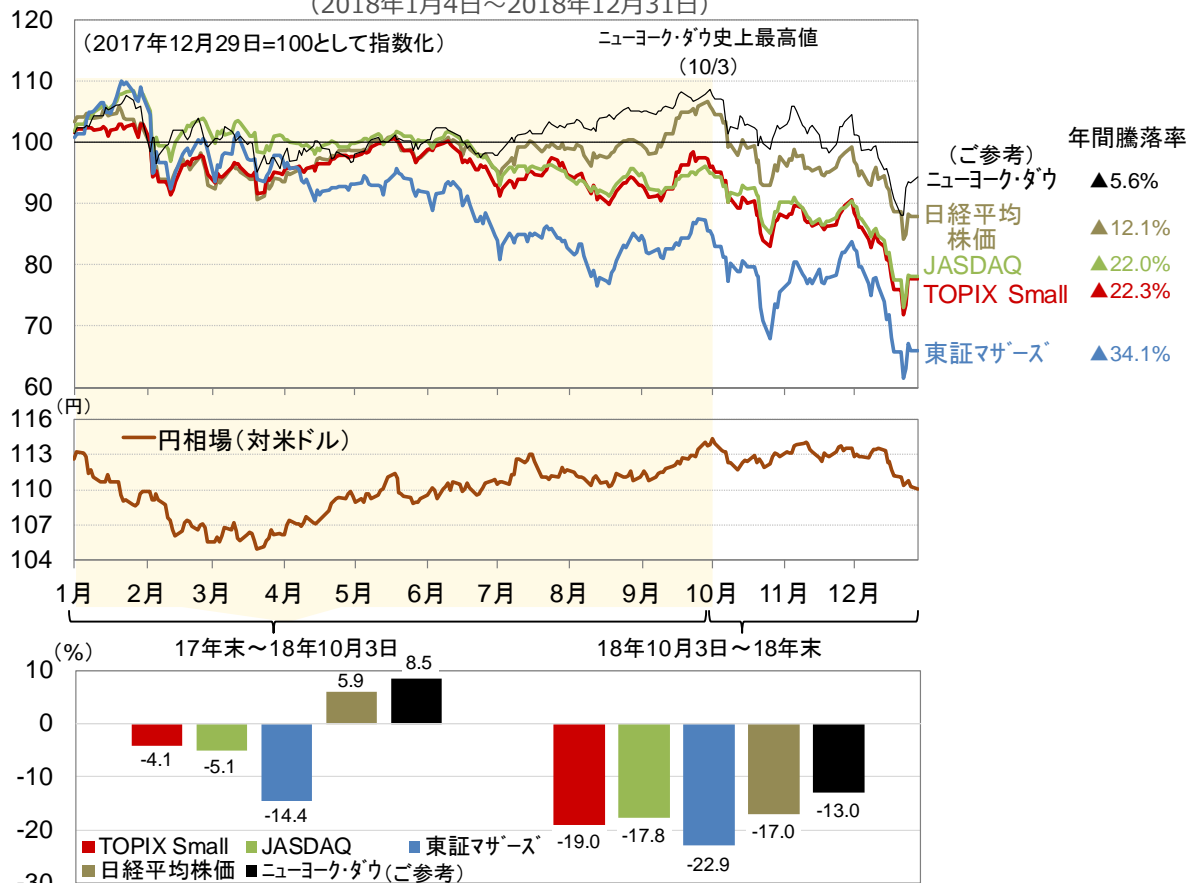
2018年は、米・中を中心とした通商摩擦や米長期金利の上昇、世界景気および米国政治の先行き懸念などが投資家のリスク回避を促すこととなり、新興国株式や中小型株式を中心に世界的に株価が下落しました。当資料では、日本の中小型株式の2018年の状況と今後の見通しに焦点を当てます。

### 日本の中小型株式のパフォーマンスが2018年に特に冴えなかった主な背景

- 春から秋にかけ、米国の景気や企業業績見通しの好調さを背景に、同国株式および米ドルが上昇傾向となる中、日本では日経平均株価が上昇するなど、大型株式に買いが集まり易かった。
- 一方、1-3月期の大雪や7-9月期に相次いだ自然災害などを背景に日本の景況感が悪化し、国内景気への依存度が高い中小型株式が売られ易い展開が続いた。
- また、年央には、中小型株式を手掛けていたヘッジファンドの縮小・閉鎖が相次いだ。

### 2018年の株価および円相場の推移

(2018年1月4日～2018年12月31日)



※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

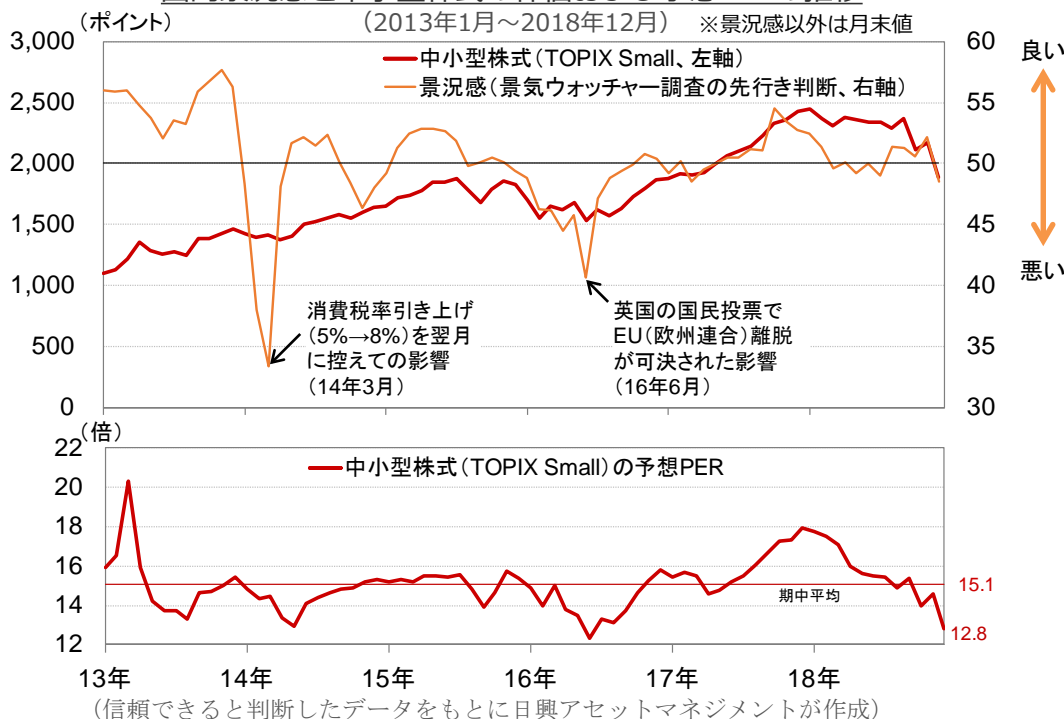
■当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 2019年の日本の中小型株式の見通し

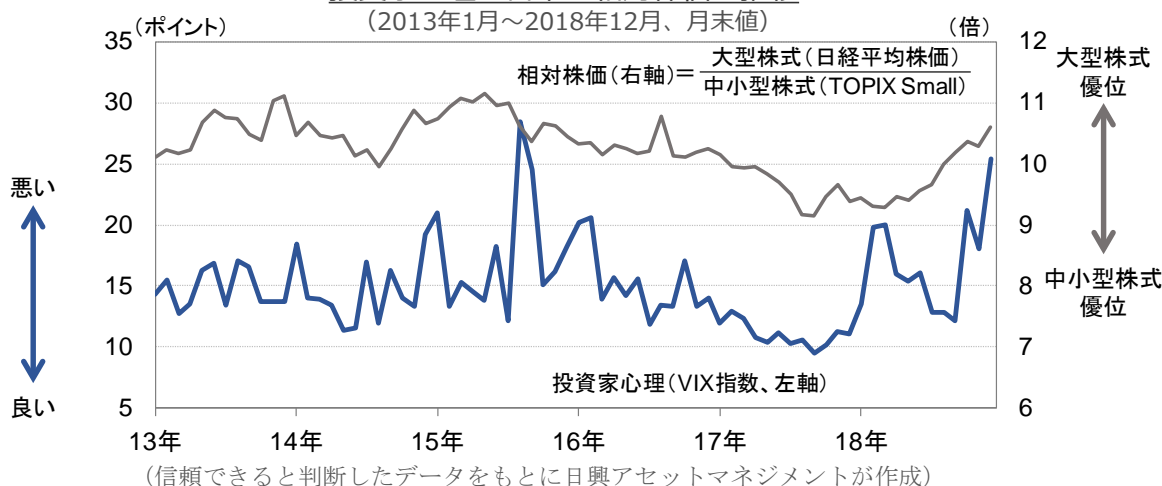
2018年の秋以降、投資家がリスク回避姿勢を一段と強め、日本の株式相場は全面安となりました。しかし、以下の理由などから、今後、投資家の過度なリスク回避姿勢が和らぎ、株価が反発する局面において、中小型株式の反発がより大きくなると期待されます。

- 貿易摩擦や中国の構造問題を巡る米・中の協議が進行中であること
- 中国当局が景気を下支えする方針を明確にしているほか、米金融当局も利上げに慎重なハト派姿勢を示していることなどを考え合わせると、世界景気の先行き懸念は悲観的過ぎるとみられること
- 日本の中小型株式が国内景況感や業績見通しの悪化をかなり織り込んでいるとみられること

国内景況感と中小型株式の株価および予想PERの推移



投資家心理と日本の相対株価の推移



※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産 (外貨建資産は為替変動リスクもあります。) を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書 (交付目論見書) をご覧ください。